

30代妊婦。妊娠後もたばこをやめられず、健診時に注意したが禁煙できなかった。妊娠38週で、胎児は推定体重2100gとやや小さく、同週、陣痛が来て分娩中、胎児の心拍に異常を認めため緊急帝王切開で出産した。

やまなし
医療最前線
安心して産み育てる
県立中央病院から

〈175〉

イミングを見極めて出産に導いている。

合併症などがあり経膈分娩ではリスクが高いと判断された場合や、お産の途中でトラブルが生じた場合などに、安全に出産するために選択されるのが帝王切開。同病院は他院からの紹介も多く、帝王切開率は年々増加している。国内の帝王切開率は

約2割といわれるが、同病院では過去5年間(2012~16年)で38.9%と4割近い。出産年別で見ると、40代では半数を超えている。

同病院では帝王切開手術の迅速化などに取り組み、常位胎盤早期剥離の発症から10分ほどで出産させた例もある。ただ、出産年齢の高齢化など今後リスクの高い妊娠・出産の増加が予想される中、内田医師はWHO(世界保健機関)やCDC(米疾病対策センター)などで提唱されている、妊娠前からの健康

管理「プレコンセプションケア」の必要性を指摘する。

内田医師によると、早産や妊娠高血圧症候群など異常妊娠の原因の中には、妊娠前から妊娠初期の母体の状態があるとされる。早産は子宮内感染や歯周病などによる炎症性サイトカインの影響、妊娠高血圧症候群や胎児発育不全は胎盤形成不全などが原因の一部とされ、いずれも妊娠前・初期からの健康管理が重要だ。今回の症例のように、妊娠中の喫煙は胎児の成長に悪影響を与えた可能性がある。

リスク高い出産増加

妊娠前からの健康管理を

「安全な妊娠・出産や赤ちゃんの健康には、妊娠前から女性の心身を健康に保つのが大切」と内田医師。妊娠を希望する女性や妊婦には、バランスの良い食生活、適度な運動、禁煙、禁酒、ストレスをためないこと、合併症のある人は主治医による適切な管理を受けることなどをアドバイス。「健康的な生活を送ってもらうことで、リスクを予防できる可能性がある」と呼び掛ける。

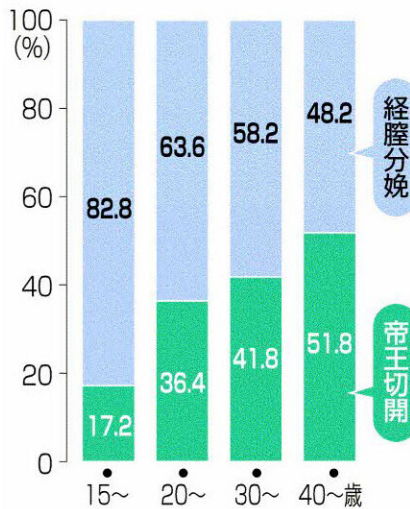
定期的な妊婦健診をはじめ、胎児スクリーニング検査でリスクの早期発見に努め、必要に応じて治療や管理入院を行う。母体や胎児の状態から、適切なタ

総合周産期母子医療センターを備える山梨県立中央病院。早産や妊娠高血圧症候群、子宮内胎児発育不全など、リスクの高い妊娠・出産を数多く扱っている。同センター長を務める内田雄三医師は、「母児とも安全に出産できるように手を尽くすが私たちの使命」と話す。



内田雄三医師

県立中央病院における年齢階級別の帝王切開率



※2012~16年の5年間。前回帝王切開のための予定帝王切開を含む

第2、4木曜日に掲載します